

立教大学での障害者スポーツ活動 ～4年間の取り組みについて～

安藤 佳代子

(元スポーツウエルネス学科教員)

私が立教大学コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科に着任したのは2013年4月、そして2017年3月までの4年間で過ごさせていただきました。みなさんと同じように、立教大学のキャンパスや雰囲気は私もとても好きで、新座キャンパスの1号館、7号館、5号館に囲まれた中庭エリアは、1年次の科目「基礎演習」でその庭を活用して車いす実習を行っていました。普段用車いすに乗って学生が走り回るのが毎年恒例の1コマとして私の中にはとても印象に残っています。

専門科目は、「障害者スポーツ」、「アダプテッドスポーツ」で、コミ福の専門科目や全カリの講義や実技を担当させていただきました。また、立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金企画研究プロジェクトⅡ（教員・学生参加型）助成金制度を活用して障害者スポーツ関連のイベントを開いたり、様々なボランティアに参加したりと、授業以外でも学生と一緒に多くの活動ができました。

2016年度はウィルチェアーラグビー日本代表合宿と車椅子ソフトボール日本代表合宿が立教大学で実施したことで、多くの学生の皆さんや教職員、立教中学や東北小学校の皆さんなどに選手たちのスキルや動きを身近で見ただけの機会ができたことはとても良かったと思います。合宿中には近くで練習サポートとして、本学の学生が参加できたこと、休憩の合間に選手と気軽に会話したりと、競技以外での一面も感じ取れたこと



写真1：ウィルチェアーラグビー
日本代表合宿の様子

でしょう。車椅子ソフトボールの合宿時には、練習サポートも行いましたが、期間中に学生を対象とした体験会の時間を設けて下さり、多くの学生が参加してくれました。一緒に競技を楽しめて、これまで感じていた「障害者」の印象が変わったことや、自分自身が作っていた固定概念や壁が自然と取り払われたような体験になったなど、いろいろな感想が聞けて非常に良かったです。

障害者スポーツの授業においても、4年間で多くのゲストスピーカーにお越しいただきました。授業内で学んだことが、実際の現場ではどうなのか、現場での課題など、生の声が聞け、さらなる学びにつながる良い制度でした。私の専門分野でいうと障害者スポーツを行っている選手の方を中心に呼びしていたので、多くの種目について学べ、体験でき、トップ選手の声を聞いたことでいろいろと感じてもらえたかと思います。

コミュニティ福祉研究所の企画研究プロジェクトでは、毎年申請して実施できていたので4年間で5回の学生主催イベントが実施できました。2013年度は日本ブラインドサッカー協会のご協力をいただき、中学生対象のブラインドサッカー体験会（ブラインドサッカー「スボ育」指導法を学ぶ）を行いました。立教中学校サッカー部の皆さんに参加していただき、体験していただきながら学生は日本ブラインドサッカー協会が行っている「スボ育」の方法について学ぶことができました。

2014年度は大学生対象の車椅子バスケットボール体験会（パラリンピックの興味関心の向上を図る）で日本代表の及川監督をはじめ選手2名にお越しいただきご指導いただき、パラリンピックでの経験談をお話いただき、ボランティアの重要性やその大切さについてお話しいただけたこともあり、参加学生の東京パラリンピック大会の関心度（観戦とボランティア参加）が非常に上がりました。2015年度は2種類実施し、1つ目は小学生対象でゴールボール教室（パラリンピック教育を考える）を行いました。新座キャンパスの隣に位置する東北小学校の4年生の皆さんにゴールボール競技と視覚障害者のスポーツについて学生が指導する機会をいただきました。内容については日本ゴールボール協会の江黒さん、安達選手にはお力添えいただけましたが、学生自身にも大きな学びになりました。2つ目の大学生対象のシッティングバレーボール体験会（障害理解と競技普及を図る）では、日本パラバレーボール協会から真野監督、女子代表チームの皆様がお越しいただき、学生にシッティングバレーボールの体験と、小学生でパラリンピック教育として実施されていることなどをお話しいただき、将来教員を目指す学生にとって非常によい体験となりました。そして、2016年度は大学生対象でブラインドサッカー体験会（コミュニケーションスキルを学ぶ）について実施しました。日本ブラインドサッカー協会が実施している「OFF



写真2：車椅子ソフトボール日本代表合宿中に行った学生への体験会の様子



写真3：学生企画：小学生へのゴールボール体験会の様子

TIME」の内容にあるように、競技を体験する視点ではなく、目をOFFすることでコミュニケーションスキルを向上する視点で学ばせていただきました。こちらも学生にも大きな気づきになりました。

障害者スポーツの大会やイベントのボランティア参加は、スポーツウエルネス学科で募集し始めて2013年から4年間担当しました。2013年度は年間32名と参加人数が少なかったですが、2016年度には113名と多くの学生が参加してくれました。参加した大会はパラリンピック種目の大きな大会のものから地域の大会、パラリンピック種目以外の大会、障害者スポーツ関連のイベントなど様々で、またスポーツウエルネス学科だけではなく他学科、他学部からも希望があり、多くの学生の参加してくれました。

現在、東京パラリンピック競技大会に向けてボランティアには多くの注目が集まっています。立教大学でもオリパラ応援団が組織されて、今後様々な動きがあると思いますので、是非とも学生の皆さんには応援団としてこれから活動していただきたいと願っています。ボランティアは、参加することで、様々な気づき、学びを得られますし、その経験が将来的につながると私は思っています。東京オリンピック・パラリンピックは、スポーツ以外にも様々な分野の広がりがあります。自分の興味ある分野で、また様々な視点からオリンピック・パラリンピックを考えるとさらに面白いと思いますので、是非とも色々調べてみて下さいね。学生のうちにできることを数多く経験して、視野を広げて、人間性を高めて下さい。皆さんの可能性は行動した分だけ広がります。今後も立教大学の学生の皆さんのことを応援しています。頑張ってくださいね。



写真4：車椅子バスケットボール大会での韓国チーム通訳ボランティアの様子

謝辞：

この4年間にゲストスピーカーやイベント等の講師で立教大学にお越しいただいた多くの皆様に心から感謝申し上げます。学生の学びにお力添えいただき本当にありがとうございました。これからも障害者スポーツの発展を願い応援していきます。



写真5：イベントのボランティアに参加した本学の学生と一緒に

最後になりましたが、コミュニティ福祉学部の先生方や事務局の皆様、体育館事務室の皆様、4年間本当にありがとうございました。皆さんと一緒にできたことを感謝し、立教大学で経験できたことを忘れずに、新たな大学でも頑張りたいと思います。ありがとうございました。